

授業作り	重点	「東京都授業改善推進拠点校」として、国語科の授業を中心に2年間の成果と課題をまとめ、カリキュラムマネジメントによる授業や学習形態等、積極的に授業改善に取り組む。
環境作り		誰もが公平な立場で安心して学びに臨めるように、教室のユニバーサルデザイン化をし、インクルーシブ教育に対応した学校内外の環境づくりを進める。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年	/	<ul style="list-style-type: none"> ひらがなの書き順を意識しながら書いたり、字形を整えたり、字を読みやすく書く意識をもたせる必要がある。 すべての児童が、数の大小の関係性を理解し、計算問題での物の多い少ないを理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ICT 機器の活用（視覚的理解） ②音読を繰り返し行う。 ③ブロックなどの有形物の活用 ④デジタルドリルの活用
2 学 年	/	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くときに「は」「を」「へ」を正しく活用できるようにする。 ひらがなとカタカナの使い分けを正しくできるようにする。 はっきりとした声で音読することができるようにする。 算数では、文章問題の内容を正しく理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①日記・作文での指導の充実 ②読書活動の推進 ③音読の反復練習 ④デジタルドリルの活用
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 文を正しく読み取る力の向上が必要である。 自分の意見や考えを紙面に表現する力の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文、読書感想文等に書き慣れさせ、正しい書き方が身に付くように指導する必要がある。 3年生は漢字数が多いので、日々の学習による定着を図る必要がある。 文章の構成を理解し、それに合わせて自分の意見や考えを表現する力の育成が必要である。 個に応じた、既習事項も含めて学習内容を十分に理解できるよう指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①漢字ドリルの視写の時間の確保 ②教科書や問題文の音読活動の充実 ③タブレット端末を活用したフラッシュカードやデジタルドリルの学習 ④具体物やイラストを用いた学習の充実 ⑤自分の考えや意見を文章化する機会を増やす、スピーチの活用 ⑥週末の日記の課題など「書く」活動の充実
4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 国語の説明文において、内容を正確に読み取り、活用して記述する力の向上が必要である。 算数では、図形や測定の領域、式による表現の問題について、力を付けていく必要がある。 国語・算数共に、文章についての理解や考えを表現する力が身に付くよう指導して 	<ul style="list-style-type: none"> 文章から必要な事柄や適切な情報を読み取る力を身に付ける必要がある。 文章の構成を理解し、それに合わせて自分の意見や考えを表現する力の育成が必要である。 要約や、様々な文章表現の仕方を知り、書く経験を重ね、力を身に付けていく必要がある。 図形の特徴を理解したり、数量の関係を式に表したりする力の育成が 	<ul style="list-style-type: none"> ①キーセンテンスの書き出し、要約する活動の充実 ②自主学習の取組の充実 ③児童一人一人に合わせた課題の設定 ④デジタルドリルの活用 ⑤思いや考えを表現する機会の設定

	いく。	必要である。	
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域について力を伸ばす必要がある。 ・漢字の読み書きについて力を伸ばす必要がある。 ・算数では、特に分数と平面図形の単元での力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習を日常的に継続して行い、既習漢字について定着できるようにする。 ・様々な言語に触れる活動を日常の中に多く設定し、言語感覚を養う。 ・算数では、授業の中で、関連のある既習事項に触れる機会をもつことで、学習内容の定着を図るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①既習漢字の反復練習 ②辞書引き学習の推進 ③デジタルドリルを中心とした様々な学習ツールの活用 ④個に合った学習環境の整備 ⑤自分の考えや意見を文章化する機会を増やす、スピーチの活用
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の「書くこと」においては、内容を正確に読み取り、記述する力を付けていく必要がある。 ・算数の「思考・判断・表現」においては、問題文から問われていることを式や図、言葉で説明する力を付けていく必要がある。 ・問題文を正しく読み取れるように指導していく必要がある。 ・応用問題や記述問題において、個人差が大きく二極化の傾向があり、個別最適な指導をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章のテンプレートを紹介し、まずは定型文の文章を書けるようにする。 ・1つの問題に対して解き方を、図や式で表すことを行い、様々な解法があるということを身に付けさせていく。 ・文章が伝えたいことや問われていることは何なのかを確認していきながら、正しく内容理解ができるようにしていく。 ・個に応じて、既習事項も含めながらそれぞれの苦手分野を把握し、それに応じて課題設定を行って学習に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①漢字ドリルと小テストを繰り返し活用 ②具体物や写真等、視覚でも理解しやすくなるような掲示方法の工夫 ③タブレット端末を活用したフラッシュカード、デジタルドリルの学習 ④自分の考えや意見を文章化する機会を増やす、スピーチの活用 ⑤毎週の日記の課題など「書く」活動の充実
特別 支援			

中間評価	
○成果と▽課題	期末への方策等
<p>【第1学年】</p> <p>○定期的な書き取りテストの実施、ひらがなカタカナの宿題を細目に確認、指導することで、字を書くことへの興味や意識を付けることができています。また、ICT機器を利用した課題の実施を通して、取り組む意欲を増すことができた。</p> <p>▽児童間によって識字の差が激しく、書き取り全般が苦手な児童や、外国籍の児童に対しては、定期的にふりかえりテストなどを実施して継続した定着への取り組みが必要である。</p> <p>○数の概念を理解させることはできた。ブロックの有形物やICT機器を使うことで、数のイメージをもちやすくし、課題に取り組みやすい環境を作ることができた。</p> <p>▽問題文の読み込みに課題があり、立式や計算を間違ってしまう児童が多いので、国語の読みや文章理解と並行して指導していく必要がある。</p> <p>【第2学年】</p> <p>○作文や日記を書く活動を通して、「は」「を」「へ」やひらがなとカタカナの使い分けを正しくできるようになってきている。また、文章を正しく読み取る力も日頃の読書活動や音読を通して身に付いてきている。</p> <p>▽人前でのはっきりとした声での発言や音読については今後も指導が必要である。</p> <p>【第3学年】</p> <p>○タブレット端末を使用したフラッシュカードやデジタルドリルを用いて繰り返し、習熟することができた。</p> <p>▽作文の書き方を指導してきたが、なかなか定型文以外を書くことが難しい児童が多い。文章の構成力を身に付けさせるために、様々な授業を通して考えたことや思ったこと等を文章化させる指導が必要である。</p> <p>【第4学年】</p> <p>○叙述を基に考える活動に繰り返し取り組み、根拠のある意見をもつことができるようになってきている。また、自分の考えを表現したり、友</p>	<p>【第1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに漢字の学習も加わり、学習内容が増えるが、漢字学習の合間にひらがなカタカナのふりかえりテストを定期的実施して、徹底した定着を図り次学年へ繋げる。 ・普段の学校生活の中から、簡単な計算の場を取り上げ、1桁や簡単な2桁の計算ができるようにする。また、ワークやICT機器を活用し、計算能力の向上を図る。 <p>【第2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、作文や日記を書く活動を通して言語を正しく使うことができるよう指導していく。また、人前で発言や音読をする機会を増やし、話し方の指導も行っていく。 ・デジタルドリルについて、さらに活用の幅をもたせ、個に応じた指導を行っていく。 <p>【第3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を使用したフラッシュカードやデジタルドリルの活動を継続して行う。 ・文を書く取り組みをより多く取り入れる。また、読書や辞書引きの推進をしながら、語彙を増やしていく。 <p>【第4学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもった自分の考えをもつ活動を続けていく。表現するために必要な言葉等については、辞書引きや具体物、写真や動画などを活用して指導を行っていく。 ・デジタルドリルについて、学習している単元に限らず、既習の内容も含め取り組むようにし、学習内容の定着を図る。 <p>【第5学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辞書引き活動とともに、話の概要を捉える活動に引き続き取り組み、様々な言語に触れながら、言葉の意味に着目できるよう指導を継続する。 ・自分の考えを表現するスピーチ活動や、日記を書く活動に継続的に取り組むことで、考えを文章化する力の定着を図る。 <p>【第6学年】</p>

<p>だちの考えから学ぼうとしたりする姿が増えた。</p> <p>▽問題は理解していても、答え方が適切でない場合が見られる。適切な解答の見本を示したり、様々な問題に取り組む経験を積み重ねたりしていけるよう指導していく必要がある。</p> <p>【第5学年】</p> <p>○文章を読んだり話を聞いたりする中で、内容の概要を捉え、キーワードは何かを考える活動に取り組むことで、言葉が示す意味に着目する児童が増えた。</p> <p>▽自分の考えを書いたり話したりする活動において、考えはあるものの、文章に表すと構成がうまくできなかつたり、組み立てられなかつたりする児童が見られる。自分の考えを表現する活動を通して継続的に指導していく必要がある。</p> <p>【第6学年】</p> <p>○分からない言葉や表現があると、辞書やタブレット端末を使って自分から進んで調べるようになり、学ぶ意欲の高まりがみられた。そのことから文章を読む際に内容を理解できる児童が増え、伝えたいことや問われていることが何なのかを理解しながら読み取ることができる児童が増えた。</p> <p>○応用問題や記述問題において、個人差が大きく、二極化の傾向があることが続いているので、思考力を高められるように様々な考えに触れ、広げられるように指導していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、毎週の日記や指定された行数以上の文章を書くことなど、書く活動を継続することで、さらに力を高めていく。 ・デジタルドリルを活用し、苦手分野を中心に当該学年以外の問題も取り組むことで、それぞれの苦手分野を克服していく個に応じた指導を継続して行う。
---	--

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	次年度への方策等
<p>【第1学年】</p> <p>○朝学習や授業はじめのモジュール学習として、デジタルドリルやかんじスキルなどの副教材を活用し、漢字の書き方を集中的に学習したことにより、文章などの中で積極的に活用できる児童が増えてきた。</p> <p>▽再テストや繰り返し学習を行っても、短期的に記憶して成果は上がるが、期間を空けると忘れてしまう児童がいるため、継続的な指導が必要。</p> <p>【第2学年】</p> <p>○作文や日記を書く活動を通して言語を正しく使</p>	<p>【第1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視写などの学習を通して、字形が整った字を書けるようにする。 ・デジタルドリルの書き順判定を適宜児童に合わせて設定し、正しい筆順を意識して取り組めるようにする。 ・定期的なふりかえり学習を取り入れ、学習内容の長期的な定着を図る。 <p>【第2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成を理解し、それに合わせて自分の意見や考えを表現する力を育成する。

うことができるようになってきた。また様々な教科において、発言や音読をする機会を増やし、人前での話し方も多くの児童が身に付いてきている。

▽デジタルドリルについて、今後もさらに個に応じた課題や、新宿区学力定着度調査の結果を反映させた課題に取り組みせていく必要がある。

【第3学年】

○辞書引き学習を重点的に行った。その結果、語彙に興味をもち、学習する際に語彙への意識が高まった。

▽デジタルドリルを朝学習や家庭学習等で取り組むことはできたが、今後さらに個に応じたデジタルドリルの活用を十分に行う必要がある。

【第4学年】

○文章の様々な表現や構成に着目して取り組むことを通して、進んで語彙や表現を調べたり、自らの考えを表現することにも生かしたりする児童が増えた。

▽デジタルドリルでの個に応じた課題の設定をしながら取り組むことができるよう指導を考えていく必要がある。

【第5学年】

○文章の構成を確認しながら話の概要を捉える活動を通して、重要な言葉や部分に気付き、要旨にまとめることができる児童が増えた。

▽自分の考えを文章に表したり、話したりすることにはまだ課題が残る。様々な言語に触れながら語彙を増やしたり、考えを表現したりする活動を通して継続的に指導していく必要がある。

【第6学年】

○知らない単語を調べていくことで、知っている言葉が増えた。それを文章で使っていくことで語彙力が高まった。また、文章の内容を深く読み取ることができ、引用しながら自分の考えを書くことができるようになった。

▽デジタルドリルを活用したり、新宿区学力定着度調査の結果を参考したりしながら自身の課題を把握し、少しずつ改善していく必要がある。

・個に応じて、既習事項も含めて学習内容を十分に理解できるよう指導する。

【第3学年】

・語彙への理解力や文章や段落等の構成力等を育てるように指導を行う。

・個に応じて、既習事項も含めて学習内容を十分に理解できるよう指導する。

【第4学年】

・新しい学習内容に関わる既習事項の復習や確認を含め、デジタルドリルやモジュール学習や少量の問題プリントなどを取り入れるなど学習の積み重ねが出来るように指導していく。

・読み取りだけでなく、要点を捉えて話を聞くなどの力も育成していく。

【第5学年】

・辞書引き活動とともに、言葉に着目して様々な文章を読んだり、感じたことや考えたことを文章に表したりする活動を通して、表現力を高めることができるよう指導していく。

・デジタルドリルを活用し、現在の学習内容につながる既習内容を振り返ることで、学習内容のさらなる定着を図る。

【第6学年】

・さらに読解力を高めていくために、様々な文章に触れ、文章構成や多様な考え方に触れ、自身の考え方を広げていく必要がある。

・学習内容の定着度合いを児童自身が把握し、既習事項の内容を確実に理解していく必要がある。